



サンビोटニック農業で大豊作！ かぼちゃ・ズッキーニ栽培基準



時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
3月	育苗期	育苗培土(市販) 鈴成	必要量 培土に対して5%	混和	播種または鉢上げする場合は培土には、病気に強く、花芽分化しやすい苗を作るため、鈴成を培土に5%混和します。有機質の少ない培土の場合は、五穀堆肥を10%混和し、2週間程度おくと、良くなじみます。
		菌力アップ	200倍希釈	7日おきに灌水 (4回以上)	左の希釈倍率は、ポット育苗の場合です。セルトレー育苗の場合は、根鉢が巻きすぎ、老化または肥料欠乏になりやすいため、菌力アップは500倍希釈と薄めに行います。
		コーソゴールド	500倍希釈	葉面散布 (7~10日おき)	コーソゴールドは花芽分化促進となります。防除の際、農薬とコーソゴールドを混用して散布すると良いです。
3月	本圃準備 (元肥)	五穀堆肥 有機百倍 鈴成 菌力アップ	(かぼちゃ)(ズッキーニ) 50袋 50袋 5袋 7袋 5袋 7袋 5リットル(適宜希釈)	土壌混和	あらかじめ土壌分析に応じて、pH、石灰、苦土などを施用しておきます。 その後、1~2トン程度バーク堆肥や牛糞堆肥などの堆肥を施用します。(五穀堆肥の場合は50袋)発酵鶏糞や豚糞堆肥の場合は、500kgまでの施用量とします。堆肥を散布し、菌力アップを散布したら土壌混和して1か月程度養生します。 定植後1週間前に、元肥を施用します。元肥の有機百倍は、マッスルモンスターに置き替えてもよいです。地力に応じて、元肥は抑え気味とし、つるボケを防止します。
4月	定植期~ 初期生育	菌力アップ コーソゴールド 純正木酢液	5リットル 2kg 2リットル	5~7日おきに 灌水(4回以上)	定植直後は活着促進のため、株元灌水で菌力アップ200倍希釈(300~500cc/株)を1日おきに施用すると良い。活着後は、初期生育のため左の通り。希釈水量は1トン程度、十分にしみわたる量を施用する。 農薬散布時には、コーソゴールド500倍、純正木酢液1000倍を混合散布すると、病害予防、花芽促進等に良いです。草生栽培では、畝間(通路)部分に定植前または直後に、マルチムギやエンバクなどの種をまき、混和後転圧しておくことで雑草予防になると同時に、敷きわらの手間が省け、また疫病やうどんこ病の抵抗性も増します。
5月	受粉 着果促進	コーソゴールド 海王	500倍希釈 5000倍希釈	葉面散布	低温や日照不足時の着花促進には、コーソゴールドと海王を葉面散布します。受粉予定日の2~3日前に行うと、効果的です。
5月	着果期~	(追肥) 有機百倍 鈴成 ケイ酸カリ	1袋/回 1袋/回 1袋(20kg)/回	着果後1週間 頃、2~3回追肥 (1番果、2番果、 3番果後にそれ ぞれ追肥)	かぼちゃは、生育後半まで樹勢を落とさないことが、収量アップと、うどんこ病対策となります。 ケイ酸カリは、ケイ酸がうどんこ病の抵抗性を上げ、カリがデンプンの蓄積を促進するため、収量が上がります。
6月	肥大期	(収量アップ) 特濃糖力アップ コーソゴールド	5kg 2~3kg	7日おきに 灌水(継続) (1~2トンの水で 希釈)	かぼちゃは、元肥を抑えつつ、着果後から樹勢を落とさない管理が重要。特濃糖力アップは収量アップ、なり疲れ防止で、コーソゴールドは、2番果、3番果の着花促進、食味・品質向上、病害予防。灌水の間隔や量は、生育を見てその都度調整する。特に乾燥したときは、灌水すると良い。(動噴の先を外して、ホースでどンドン散水するように灌水する。)
病害時 (随時)	フザリウム、疫病、べと病、センチュウなど	菌力アップ 純正木酢液	10リットル 500倍希釈	灌水(水1トン) 3日おき4回以上	土壌病害は、必ず初期症状で発見し対応する。 適用薬剤があれば、殺菌剤等を使用したのち、菌力アップ・純正木酢液で病害の蔓延・拡大のリスクに対応する。ネコブセンチュウの場合は、糖力アップ5リットルを混用する。 3日おき4回灌水が終了したら、使用量を半分にして、7日おきに灌水を継続する。
	病虫害の 対応(うどん 粉等)	純正木酢液 本格にがり	500倍希釈 500倍希釈 (水量150リットル)	3日おきに 葉面散布(5回)	殺菌剤を併用し、葉面散布します。にがり、木酢は細胞壁や繊維質を強化し、耐病性を高めます。 純正木酢液5倍液に、ケイ酸カリ(粉末)を木酢液の1/10量混ぜ、一晚浸漬したのち、その上澄み液を100倍希釈にして使用すると、なお良いです。 (例)水4L+木酢1L+ケイカリ100g→上澄み液を100倍希釈

※地域、作型によって、時期が異なると思いますので、生育ステージで判断してください。
 ※可能であれば、土壌診断を実施し、データに基づいて施肥設計を行うことをお勧めします。
 ※品種や土壌条件等によって、施肥量は加減してください。